

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念の中で「その方らしい至福の時間を大切にする」ことが組み込まれている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の申し送りですべて唱和し、全体として共有できるようにしている。	○	
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	各階の入り口に理念が掲げられており、又地域運営推進会議においても理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	家族や地域の方々に更に理解して頂けるよう地域運営推進会議や行事を通じて取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員は隣近所の方々と気軽に挨拶を交わし、良いお付き合いができるよう努めている。	○	隣近所の方々にもっと気軽に立ち寄ってもらえるような関係作りに努める
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の盆踊りなど入居者様と共に行事に参加しています。	○	学校の行事や老人会への参加等声かけ、お誘いをしていく。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者等に対しての話し合いや取り組みは特に行っていない。	○	今後は地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか職員で全体会議において話し合いをもっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は評価の意義を理解しており、前回の評価を活かし改善に取り組んでいる。	○	今後はできているところなども工夫を計りより良いケアに結びつけたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議においてサービスの状況を報告し、皆さんからの意見もいただきサービス向上に活かしている。	○	ふた月に1回開催し、地域の校長先生など多くの方々の意見もいただけるようにしていく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村との行き来はあまりなく、共にサービスの向上に取り組んでいるとは言えない。	○	今後は運営推進会議以外にも機会を設け、質の向上に取り組む。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個人で研修などには参加し、必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。	○	研修で学んだことを全体として話し合える機会を作り全員で共有できるようにしていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	勉強会等で学ぶ機会を持ち、また虐待を見逃すことがないよう職員は注意を払い防止に努めている。	○	今後も全体会議等で学び、全員で防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には環境による認知症の影響をできる限り最小限になるよう、家族に十分な説明を行い理解、納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口は設置しており、日常の中でコミュニケーションをとり意見や不満等を聞きそれらを運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月一人ひとりの生活状況、金銭出納長を担当職員より報告させていただいている。又、家族の来訪時に都度近況を報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月生活状況を報告する際 返信用の封筒を同封させていただき、意見、不満、苦情等をいただけるようにしている。	○	いただいた件についてはユニット会議で話し合い改善していき日常のケアに活かしている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議等を実施し、意見や提案を聞ける機会を設けている。又 必要な時には個人とも面談を行っている。	○	全職員がもっと意見や提案を出せるような全体会議のありかたを検討して
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて出来る範囲内で勤務の調整を行っている。	○	人員に余裕を持たせ勤務調整がいつでも柔軟に行えるよう体制を整えて
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、職員は利用者へのダメージを防ぐ配慮に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部での研修は機会の確保を行えるよう勤務の調整を行っている。	○	全体会議の場で都度研修報告をし全員のものとしていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	中央区認知症高齢者GH協議会に参加し、同業者との交流を通じサービスの質の向上に努めている。	○	地域の同業者と交流する機会には積極的に参加しネットワーク作りを行っていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	半年に1回 職員はリフレッシュ休暇(3連休)をとるようにストレス軽減に向けている。	○	今後は有給もとれるよう体制を整えていく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう個々に声掛けし努めている。	○	今後はもっと運営者と職員が話し合える機会を設けていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に2~3回本人と面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていること等を聴き本人の思いを受け止めるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に2~3回家族と面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていること等を聴き家族の思いを受け止めるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人及び家族のその時のニーズを見極め当ホーム以外のサービス利用も視野に入れた上での対応に努めている。	○	今後より広い分野で対応できるよう努めたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人をお茶の時間にお誘いし、ホームでの生活や他入居者様との交流を体験して頂いたりし、安心してサービスを利用出来る様にしている。	○	今後も一人ひとりに合わせ柔軟に対応して行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る限り意向を伺う事、生活の中で人生の大先輩としての知恵をお借りする事を大切にしている。共にゆったり過ごす時間は不足している。	○	ゆったりと共に過ごさせて頂く為の工夫を追求して行く。
28 ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	訪問時や電話等の日常的な関わりや他、毎月の手紙として家族から頂く声をケアに反映する様に努めている。	○	家族からの声をもっと反映されるケアの実現を目指して行く。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	傾聴や、心を寄せさせて頂く事から始めている。共に楽しい時間を過ごして頂く場として、お誕生会その他の行事等への参加を呼び掛けている。	○	今後も更に工夫を重ね、より良い関係の構築に向け支援して行く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の本人の生活への聞き取りが不足し、思いを寄せさせて頂く事に困難がある。	○	対話(本人・家族との)により情報を掘り起こし具体的支援内容を探り実行して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	関係の現状把握には努めているが、より良い関係の中で孤立せずに、という点で支援が不足している。	○	幅広いレクリエーションの提供、フロア間交流、デイサービスとの交流、他ホームとの交流にも努めていきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居時に、必要あればいつでも連絡等下さる様伝えている。		今後も同様の対応に努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情・行動等からの把握や、家族からの話の中からの把握に努めている。		今後も同様の対応に努めていきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談受付時・入居時に伺う様にしているが、情報不足の現状もある。	○	本人や家族との対話を通し継続的に情報収集に努めていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	総合的な現状把握に対する取り組みが不足している。	○	チームケア推進、カンファレンス強化、センター方式の活用・浸透等に向け一歩ずつ進めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成に向けてのケースカンファレンスに取り組み始めている。又、作成に当たり各メンバーや必要な関係者と話し合い意見やアイデアの反映の必要性の理解・周知に努めている。	○	今後更に強化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	円滑・迅速な対応が不十分な為、現状に即した新たな計画の作成が遅れる事があり改善の必要がある。	○	円滑・迅速に対応できる力量をチーム、或いはホームとして発揮して行きたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の様子をケース記録に記入し、連絡ノートにて伝達事項等の情報共有に努め、確認し合いながら取り組んでいるが、介護計画に沿った記録という点で不十分さがある(ナンバリング等)。	○	更に介護計画に沿った記録となる様に努力し改善する等の工夫をして行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	1Fがデイサービスになっているが多機能性を活かした柔軟な支援はあまりできていない。	○	併設されているデイサービスの機能を活用できるよう検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向や必要性に応じて地域と協力しながらの支援は不十分である。	○	年2回の避難訓練や行事等、地域の協力ももらいながら行って行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	病院受診などで本人の意向によりホームヘルパー等を利用し支援している。	○	今後は地域のケアマネとも話し合い他のサービスを利用する為の支援も考えていく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域運営推進会議等を通じて行っているがまだ不十分な状況にある。	○	日頃から地域包括支援センターとの連携を密にし必要に応じ協働していただける体制を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療において健康管理、又必要に応じ服薬の確認、皮膚疾患の処置等医師の指示にて行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に状況を報告し、相談しながら必要な時は物忘れ外来受診などを行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常勤として配置されており医療連携体制をとり、相談 アドバイスを行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に向けて病院関係者との情報収集や連携が取れている。又 情報は常に職員に連絡ノート等で共有できている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族や本人の意向をふまえながら病院関係者と連携を取り行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居時に家族に対し説明しかかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。	○	今後の変化に備え準備を具体化していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居前に家族及び本人と十分な話し合いをし、家族にもできる範囲内で協力もらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけや対応に不十分な点がある。	○	尊厳とは何か再度確認し共有していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	洋服選びや物の置き場所決め等をして頂いている。	○	外出支援等を通し、食べたい物・着たい物を選んで頂く等を継続していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り支援させて頂いているが、人員的な問題等で出来ていない部分もある。	○	人員に余裕を持ち出来る限り支援させて頂きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理容・美容を利用している方が殆どである。	○	馴染みの所があればお連れする支援を積極的に進めて行く。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方に合わせ調理・片付けをして頂いている。	○	時には外食・出前を取り入れる等の支援を工夫していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	全員の希望通りにいかないときもあり、出来る範囲で支援しているが、今度は更に工夫が必要である。	○	日頃のおやつや飲み物など、好きなときに飲めるような工夫が必要である。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の状態を見てトイレ誘導している。	○	トイレ誘導の際にはプライバシーに配慮し、その方だけに伝わる様にする。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴チェック表を活用し、間隔を考慮しながらお誘いしている。	○	入浴の心地よさを実感して頂く事で本人からも希望が出る様にして行く。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	室温・服薬時間・対応の仕方に配慮し、不眠時にはホットミルクの提供等もしている。	○	統一したケアを行い入居者様の混乱を招かぬ様にして行く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	体操・塗り絵・絵描き・歌・散歩等を生活に取り入れている。	○	日常的にドライブに出かける機会等も作っていく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の状況に合わせて支援している。	○	今後更に枠を拡げて行きたい。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援している。	人員的に困難な時もあるが、安全第一で可能な時には出掛けられる様にしていく。	○	おやつや時間等も外に出て、ゆっくりと過ごせる様にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別的にはあまり対応出来ていない。	○	個別に深く関わっていき、行きたい所を探り対応する。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話に就いては、携帯電話をお持ちの方以外にはあまり支援出来ていない。	○	希望時には連絡を取れる様に家族にも協力頂き体制を作る。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時の明るい対応に努めている。	○	家族会等で家族との関係を少しでも近付ける様にする。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないが具体的な理解については不十分である。	○	身体拘束とは何かに就いて全員が理解を深める。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	安全の為の施錠はしているが、それ以外はしていない。	○	今後も職員の都合による施錠はしない。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認はこまめにしているが、気付くと他フロアに行っている事もあった。	○	職員全員が入居者一人ひとりの所在を確認しあう。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせ必要のある物は預からせて頂いている。	○	チェックリスト等を作り保管・管理に努めて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の内部研修を行い又対応のマニュアルもできている。ヒヤリハット及び事故報告書を職員全員で確認し事故防止に努めている。	○	今後も事故防止に向け勉強会を行い職員のレベルアップを図っていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練については全体として行われていない。	○	全職員が熟知できるよう今後訓練を定期的に行えるようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回 避難訓練を行っているが施設内のもので終わっている。	○	地域の方々の協力も得られるように働きかけていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	介護計画の説明時及び状況に応じ都度家族に伝え話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員間での情報共有は出来ており早目の対応をしている。毎日のバイタル測定、必要時は2～3回の再検を行っている。	○	緊急時の対応に就き不十分な点があると思うので学習等をして行く。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確実に服薬できるよう支援しているが、薬の副作用についての理解が不十分である。	○	薬の副作用等をもっと理解して行く。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	予防の為、起床後の冷たい牛乳の提供したり、副食に野菜を多く取り入れている。又、偏食にならないよう支援している。	○	食事・運動等での予防を更に充実して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕の口腔ケアのみ行えている。	○	毎食後の口腔ケアをして行ける様にする。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量共に確保されている。	○	摂食量不足の方には医師の指示を仰ぎ栄養補助食品を提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常的に消毒を行い予防に取り組んでいる。排泄物による環境汚染にはキッチンハイター消毒で対応、血液・排泄物・体液の扱い時にはデイスボグローブで対応している。また調理・処置前後の手洗いの徹底、まな板・包丁類のキッチンハイター消毒を行っている。	○	感染症に対する予防や対応の取り決めを更に具体化していく。職員の就業前、来訪者の手洗い・含嗽を更に徹底していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具などの消毒は日常的に出来ている。食材は毎日業者から配送され新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに花を植えたり、畑で野菜を作ったりし、親しみやすい工夫はされているが不十分である。	○	季節に合った花を植えたり、玄関に季節の花を飾ったりしもっと親しみやすい環境作りを工夫していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感あまり取り入れられていない。	○	季節感のある物を利用者と一緒にとって、置いたりして行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやベンチ等で一緒に或いは一人で思い思いに過ごされている。	○	今後も工夫を続けていく。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全員ではないが馴染みの物などを置いて頂いている。	○	今後も家族や本人と相談しながら工夫していく。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度は利用者の状況に応じ調節出来ているが換気は不十分である。	○	換気を十分に行い、気になる臭い等が出ない様にして行く。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手摺りを歩行時に使用して頂く等、状況に応じ自立支援出来る様になっている。	○	今後も安全且つ自立した生活を送れる様に工夫していく。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見守り介助をさせて頂きながら一緒に家事を行って頂ける様に工夫している。	○	一人ひとりの身体機能に合わせて出来る事を見つけ支援して行く。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇があり利用者が花の手入れをしたり、観賞したり楽しめるようにしている。	○	安全に活動できるよう配慮していく。又、各ユニットのベランダも活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input checked="" type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ○④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ○③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ○④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98 職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ○③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない